
ミケールと、ぷうたんの物語 ~おかし { お菓子(おかしい) } ランダムー学校生活、編 ~

アストン・ウォルテクス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ミゲールと、ふつたんの物語 ～おかしくお菓子～ ランダムー学

校生活、編～

【Zコード】

Z6594Y

【作者名】

アストン・ヴォルテクス

【あらすじ】

38歳の「よく普通の少年」、ミゲール。彼はボケで女好きで勉強が宿敵だといっている「よく普通の少年」である。

そんな彼はある日、とてもとても変な夢を見ました。それは、いろいろな人たちがいる学校で、勉強がだーいすき！になるまで、ボケが天才になるまで、女好きが治るまで、ずーっとといなければならない学校でした。そこは寮もあるので、一応すめます。だが、そんなのは嫌だ！というミゲールは脱走をしようとした。と、そのと

き、ちょうどミゲールと似たようなことをしている変わった少年、
「ふうたんと出会ったミゲールはそのふうたんと二人で「おかしくお
菓子」とランダムー学校完璧超平和脱出計画」を立てました。これは、
そんなごく普通の少年のミゲールと変わった少年のふうたんと学校
の人たちが繰り広げる、ギャグ小説である！世は、脱出時代！！

強引な超有名人学校長・・・の巻き（前書き）

は～い！新し～ところで始めたお！

前のやつを「ペーしてあるから、まるきつじ同じだじょ！

強引な超有名人学校長・・・の巻き

？？？「ぐひひーいいねえ～」のおねえさん。めっちゃいいスタイルしているし・・・」

ここは、赤と茶色でできた一軒家。まあ、ギリギリ30人が入つてパンパンになる家だ。そこに、ある少年^{おっさん}が住んでいた。

その少年は黄金色の髪でツンツンヘア、赤いバンダナをしていて、狼のようなマークが胸についていて「Future of wolf」と書かれている赤いジャンパーを着て、ポケットがたくさんついている青と黄色でできた短パンをはいていた。

いも、その少年はH口本を見ていたところだ。いやもつほんとにH
ロイ少年だ。

？？？「少年におつさんとつけるなボケ作者！！！ああん！！？」
テメエ、俺になぶりごりされたいか！！！！」

逆に俺がやつてやるよ。ぐひひ・・・。

ツフ、分かれればいい。といつゝことで、この少年の名前を紹介しておこう。^{おっさん}この少年の名前は・・・「^{おっさん}H口・H口・H口」だ。

！――――俺の名前はミゲールだ！―――」ミゲール・レブリア
”だ―――「

ふうん。だから?

ミゲール「それはひでえよ―――！俺はお前に作られたのに――・
・はあ・・・何で俺はこんなボケな野郎に作られたのだろうか・・・

「

ああ――?んだと――?てめえ、誰に向かつて口聞いてやがる――!ボ
ケ――――!

ミゲール「うわああああああああああああああああああああ
ああああああああああ――!――!――!――!――!――!――!

とまあ、こんな風に、少年ミゲールはすゞしていった。

そななある日、少年ミゲールはつていつか、いちいち少年つて打つ
のめんどいから、もういいや。お前はこれからオッサゲーな。

オッサゲー「その名前はやめろおおおおおおおおおおおおおおお
お――――!――!――!――!――!――!――!――!――!――!
お――――!――!――!――!――!――!――!――!――!――!

「――!俺の許可なくやつてるし――!――!――!

そななある日、オッサゲーはある夢を見た。その夢とは・・・

～オッサゲーの夢の中～

オッサゲー「何だよ!こ・・・なんか、マツタケとかしいたけど
カタケノ口とか、まいたけとかなんか変な形の家があるなー。つー

が、何できのこー?更に言ひナガ!“あくらが有名なまち、「キックーウラーゲ町」つてなんだよ!!きくらげをそのまま歌詞にしたようなものじゃん!!何なんだよ!!せー!「

オツサゲーはそんなことを言いながらキックルーグ町を歩いていた。そして、何分かたつとあるところへやつてきた。そこは白と赤いいろでできた学校のようなところだつた。すると、その学校のようないの隣にある、寮のようなところからずらずらといろいろな物体がやってきて、その中へ入つていつた。例えば、全身が赤色の人間のようなものや、頭に草が生えている人間だつたりとにかくいろいろな物体だ。あ、ちなみにいまは朝でAM7時だ。

オッサゲー「はあ～・・・なんか変なところに着ちまつたな。」

オツサゲーはそういうながら学校を横切ろうとしていた。と、そのときだつた。なぜか急に体が勝手に止まり、勝手にその学校の中へと入つていつたのだつた。すると、突然学校からライトが照らされ、何者かの声が聞こえた。

？？？「レディ——————ス！エン！ジエントルメー
——————ン！——————！さあさあ、待ちに
待つた転校生だ！今日の転校生は・・・ボケおっかんで女好きで、勉強が宿
敵とかバカなことをいつているごく普通の少年オツサゲーだ！！！
！」

! . ! . !

オツサゲー「オツサゲー言うな！！！！！」

オツサゲーがそういうと、？？？がオツサゲーの髪の毛を掴み上げ、
引っ張つている上体だった。

卷之三

宮本「さあてオッサゲー君」

オッサゲー「ミゲールです。」

宮本「きみはこの学校の第2001人目の生徒だ！いや、嬉しいね」

オツサゲー「いや人の話しげ聞け！」っていうか、ある意味それいやみにも聞こえるんですけど・・・（汗）」

宮本「さあ、まずは学校を案内しよう―ついてきたまえ！――俺の
剣は天下無双だぜ！――！」

宮本武蔵はそういうておきながら、剣を出して、ミゲールの服に突き刺し、引っ張つていつた。ミゲールあ、間違えた。オッサゲーは顔を真つ青にしながら宮本に武蔵に引っ張られてしまいましたとさ。めでたしめでたし。

オッカゲー「ニヤリケールドウヒトスルニ――」つーかめでたゞむね
ニヤリケールドウヒトスルニ――

強引な超有名人学校長・・・の巻き（後書き）

次回も「コピー」！

しょうがないからオッサゲーをやめてミケールにしてあげた&あの有名人が教頭

今回はオッサゲーからミケールに変わっています。

そして、今日は教頭先生が登場です！

しょうがないからオッサゲーをやめてミゲールにしてあげた&あの有名人が教頭

宮本「まずはこの学校のことについて説明しよう。この学校は生徒一人一人のダメな点が治るまでこの学校にこなければならないのだ。そして、生徒達は皆、ある大きな寮に泊まっている。朝昼晩ごはんは、あの忍〇乱〇郎の給食のおばちゃん達が作る。とっても料理はおいしいけど、大きな寮だけに量が多いし、残したら”お残しは許しまへんで!!”っていうから覚悟を決めてね」

ミゲール「つてちょっと待て！今、”生徒一人一人のダメな点が治るまでこの学校にこなればならない”つていったよね！？それで俺が勝手にこの学校に入学したということは、俺にはダメな点があるってことだよね！？それどうこうこと……？俺にダメな点はないぞ！！全て完璧だ！！！」

ミゲールはそういうながら宮本武蔵学校長に訴えた。あ、ちなみに、何故オッサゲーからミゲールに変わっているのかといふと……こいつがうるさいから。

ミゲール「うるさることはなんだ！……」

ほらね。いぬわこでしょ。

ミゲール「お前のほうがうるさいわボケ作者……！」

ああん？テメエ処刑な！！絶対処刑な！！

ミゲール「“めんなれ”……！」

分かればいい。

話を戻そう

宮本一
ふむ、
ならば教えてあげよう。
ほれ。

富本は、そういうと、どこから持ってきたのか分からぬが、工口ミスター・キモイおっさんミゲール本をミゲールに投げつけた。すると、Mr. KOMはすぐさま工口モードを発動し、その工口本をパラパラとめぐり、よだれがたれていた。

宮本「それがまず第一のダメな点だ。そして、もう一つは・・・や
ってここで問題です！次の方程式を解きなさい！－－－
 $8x + 5 = 4$

ミゲール「な、なにそれ！えっと・・・えっと・・・」

宮本「はい遅い！！正解は - 6 !!! その頭のボケさがもう一つのダメな点！！そして、最後は ・ ・ ・ まずは寮についてたら、数学の方程式の勉強をしなさい！！！」

宮本「はいそこが最後のダメな点！！！分かったか！！！？」

ミゲール「へい・・・。」

ミゲールは、宮本武蔵校長からダメな点を教えられ、ショックを受けていた。

宮本「そして、入学したら、それぞれ、ダメな点のグループに分かれて、一緒にダメな点をなくすのだ。」

それから、数分後。不良のいるグループのところや、入口いやつらがいるグループなど、数々の部屋を見ていった。すると、ミゲールが校庭で何かを見つけた。

宮本「あれは・・・けんかだ!!!」

宮本武蔵学校長がそうこうと、宮本武蔵学校長はミゲールの服を剣で刺したまま校庭へと走つていった。

（校庭）

校庭では、小さい角が2度突いている赤い帽子をかぶついて白いワイシャツに、短パンをはいている少年と、オレンジと黒でできた服を着ていて、おでこには、額宛をついている青年が取つ組み合いをしていた。

少年「お前がぶつかってきたんだろ！謝れ！」

青年「何を言つてるんだってばよ！…そっちからぶつかってきたんだってばよ！…そっちが謝れ！」

少年「何だと？！？」

少年と青年が取つ組み合いをしていると、黄色い髪の毛で、ワイヤツにミニスカートをはいて、キヤンティのようなものをなめている少女と、緑色のセーターに黒の長ズボンをはいためがねをかけた

イケメンが少年を止めに行き、ピンク色の髪の毛に赤色の服を来た少女と、緑色の服を着ていて、ゲジマコの少年が青年を止めにいつた。

ミニスカートの少女「ボッスン！何してんねん……！」など「うわで喧嘩はやめんかい……」

イケメン『 そうだぞボッスン！ 口げんかなら俺が代わつてやるぞ！
！ ボソボソボソボソ・・・』

ミニスカートの少女「何スイッチまで喧嘩買つとんねん!! しばくぞ『ゴラア!!』」

ゲジマゴ「やうです！ナルト君……」
（さは粗手のせりわた）

ピンクの髪のモーティー、ちよつとコーヒーを飲んで

宮本「ちよつとまでええええええええええええええええ
えい！――――――俺の学校で喧嘩せつてるやつ――――俺の剣で
ぶつた切つてやるぜ――――」

喧嘩を止めていたと、その上空から、宮本武蔵校長とハゲールがやってきた。更に、職員室から、赤いヨリイを来た武将がやって

きた。

? ? ? 「おかしくお菓子おかしい」ランダムー学校教頭、真田幸村ー参るー.
！！！！はああああああああああああああああああああああああー！ー！ー！」

生徒達「いええええええええええええええええええええええええええ
い！ー！ー！ー！ー！」

ミゲール「だから喜ぶなああああああああああああああああああああー!
！ー！ー！ー！」

それから、富本武蔵校長はナルトという青年を剣で一突きし、真田幸村教頭先生はボッスンといつ少年を槍で一突きした。それから、ナルトとボッスンは緊急手術をしましたとさ。めでたしめでたし。

ミゲール「いええよ・・・」

しょうがないからオッサゲーをやめてミケールにしてあげた&あの有名人が教頭

次回も「ピュー！」

ミケールがまた初めに行くクラス（グループ）紹介 の巻き（前書き）

は～い！今回はちょっと短いね！

（多分ネ）

あ、そういうえば、ポケモンにタブンネつていうポケモンいたよね～。

ミケール「今ここでダジャレか！」

え？ダジャレ？何をバカなことを・・・。

ミケール「むむ～・・・」

ブーリングは厳禁！～！

ミケールがまず初めに行くクラス（グループ）紹介。の巻き

宮本「よし！では・・・お前がまず行くクラスは女好きを直すクラス、なげて、”女嫌い嫌い教室”だ！！！！！」

”女嫌い嫌い教室”た！！！！！！！」

! ! ! ! ! ! ! ! ?

宮本とミゲールは廊下にいた。そして、廊下中にミゲールの叫び声が響き渡る。

宮本武蔵学校長は棒読みでそういつた。

ミゲール「あの~怖いよ~?」

そんな宮本武蔵学校長の不気味な笑いに退くミゲールであつた。

ミゲールは、その教室に入つたとたん、叫びだした。なぜならば、
その教室には・・・

? 1 「いや／＼んもう・・・誰／＼私達を除きに来た人はあん！」

? 2 「もう・・・バカなんだからあ・・・」

? 3 - ハアハアハア・・・もうダメ・・・

足にはモジヤモジヤな毛、腕にもそんな毛、そして、色が黒く、口の周囲には鬚がついた、女がいたからである。声からしても男のような声だった。更に、ミニスカート（ついつてももうパンツは隠れていない）をはいていて、パンツのところが少々もつこりしていた。そんな女達が、ミゲールに気づく。そして、すぐさまミゲールを囲み、わざと、もう一つしているところをミゲールの顔にぶつけていた。

「ハーラー、君の名前を何と呼ぶ？」

ミゲールは号泣しながら、その教室から出て行こうとした。だが、女達が出口を全てふさぎ、もう逃げられない状態だった。

ミゲール「もう・・・終りだ・・・」

ミゲールは小さな声でやうごうと、その場にぱつたりと倒れた。

ミゲール「！」は・・・

ミゲールが起きたと、そこには体育館のようなところだつた。すると、突然マイクから雑音が響く音と共に、大きな音が聞こえた。おかしくお菓子ランダムー学校の学校長、富本武蔵だつた。

富本「レディイイイイイイイイイイイイイイイイイイイイイイイ
ス！－！－！－！－！－！－！－！－！－！－！－！－！－！－！－！
エエエエエエエエエエエエエエエエエエエエ
！－！－！待らせたね～！－！－！－！今日から新しい仲間が増えるつ
て言つ」とは知つてるよね～！－！－！？そして、その仲間の名前が、
オッサ・・・ミゲールという者だ！－！」

ミゲール「わざと顔おひとしただろ！オサッゲーつてこおひとした
だろ！－！」

富本「そうじうつて」とは、自分でももうオッサゲーと認めている
ところだとだな？」

ミゲール「いや・・・それは・・・」

富本「ミゲールといふ者のクラスが決まつたぞ！－！－！－！その名も
！－！女嫌い嫌い教室”だ！－！やあ－盛大な拍手！－！－！－！」

パチパチパチパチパチパチパチパチパチパチパチパチ
パチパチパチ！－！－！－！という拍手がミゲールの周りから聞こえた。ミゲールは、恥ずかしいという思いもあつたが、一番強かつたのは、最悪だという気持ちだつた。

そして、そんなミグールを、影から見る何人かの影がいた。

ミケールがまた初めに行くクラス（グループ）紹介 の巻き（後書き）

は～い！次回は、やつとこをあいつがーーそして、あいつも、あいつもあいつもーーあの人らもーー

おたのしみにーーー！

次回もヒューーー！

ミケールとふつたんの物語 の巻き（前書き）

は～い！～短いですお～～あいつがでてあいつとかあ～いつとかあいつとかでてあの人らも出たら終りなんだお～～

じゃあ、行くじょ～～

気持ち悪い表現あり

ミケールとふつたんの物語 の巻き

ミゲール「う・・・もう帰りたい！！」

ミケールは未だにもないていた。

11月5日、午後1時、「女嫌い嫌い教室」に入つてから4日後。

「オカマ A 「ダ・メ・よ〜ん。逃げちゃいや〜ん！一もう一そんなことするんだつたら、あんなこと今までしちゃうお?」

ミゲール「きめえよー!! こつちくんナボケー!!」

オカマB「これでも喰らいなさーい！！！！必殺”私、あなたのことが」だーーーいすきなんだによ！メロメロボンバー・アタックウルトラスペシャルエナジー・ストリーム”よー！！！！！」

ミゲール「ウエロウエロウエロウエロウエロオオオオオオ・・・オエッ！！」

ミゲールは、オカマBの必殺ファンクション”私があなたのことがあ
るだ———いすきなんだによ！メロメロボンバー・アタックウルト
ラスペシャルエナジーストリーム”を喰らつて氣絶してしまつた。
ちなみに、”私があなたのことがあるだ———いすきなんだによ！
メロメロボンバー・アタックウルトラスペシャルエナジーストリーム
”とは、オカマフレームのLEX「小さな変態の体験」の専用の必
殺ファンクションで、自分の周りを気持ち悪いハートで囲み、相手
に突進するという、超強い必殺ファンクションだ。
これを喰らつたLBXは、一撃で倒されるという。

オカマ B 「 も～ まだまだね～ // やりやん～ 」

ミゲール 「 // やりやん言つたな～ 僕は // ミゲールだ～～ 」

ミゲールは // やりやんと呼ばれるとすぐに起き上がつた。 そんな日
が何度も続いた。 そして、 それから 1 週間後の夜・・・。

寮に一つの影が見えた。

? ? ? 「 つぐ・・・ こんな変な学校・・・ すぐに抜け出していくやる～
！ 誰が一生こんなところにいるかよ！ ～ よつと一つたく・・・ あ
んな気持ち悪いオカマ教室、 もつ行きたくもねえ～ 」

その影は、 そんなことをぶつぶつ言つていた。 すると・・・

警備兵 「 誰だ！ ～ お前は・・・ よし。 学校長！ 学校長！ 富本武蔵
学校長！ 脱走している者一名発見！ その名も・・・

ミゲールです。 」

ミゲール 「 ギクッ！ 見つかっちゃつたか！ ～ 逃げる～ 」

ミゲールは必死でその学校から逃げよつとしていた。 だが、 次々と、
学校のものしたから槍の門が現れ、 逃げ場を失つてしまつた。 す
ると、 何者かが、 走つてくる音が聞こえた。 ミゲールはその音を聞
くと、 とつさに物陰に隠れた。 その人物は、 一人の少年だった。

少年 「 つたく～ 誰やねん見つかつたアホは～ 」 これで俺の計画が台無

しゃんけ！…それに、逃げ場もなくなるもうたし…・・もつ・・・
終りや・・・もう人生終了や。人間失格や・・・。もう・・・悪人
や・・・。ん！？だれやなん！そこに隠れどんのは…姿現してみ
い！…」

ミゲールは冷汗が走った。なんと、少年に見つかってしまったのだ
った。

少年「やつちがださへんのやつたひ・・・じつちからこつたるわ！…
覚悟！…！」

「デシコツ！

その場に、何がが切り裂ける音が響いた。すると・・・

警備兵「ぬおおおおおおおお…」

なんと、警備兵が背中に傷を負つて倒れていた。そつ。その少年は
警備兵に飛びついてしまったのだ。警備兵は、ミゲールのまん前の
物陰に隠れていた。そして、少年はミゲールの方を向いていつたは
ずなのだが、なぜかま逆の方向に行つてしまつたのだった。

ミゲール「ひょええええええええええええええ…」

少年「だれやなん！…吃驚させるなや…」

「…」

ミゲール「お前はどんだけアホやなん！…」

少年「うわー……おこりれたー…………」

ミゲール「おこるわボケ…………つーか吃驚したのはこいつがじゅい
…………」

少年「俺ふうたん。お前は?」

ミゲール「話しかえるなあああああああああああああああああああ
あああー…………」

「うひー、一人は出会ったのであった。

そして、あるとこでは……。

??.??.D「シルム……あそこ見てよ。なんかうまそうなやつらが
いるぜ・・・（黒）」

??.??.S「ドルク、あれは人だから食べ物じゃ……（汗）」

??.??.R「なんか変わったやつらだな……（汗）」

??.??.F「まあいこじやなこ。ここは、先生である俺達が止めないと。」

??.??.R「そうだな。それで、エナジーバスター叩きこんで、エナ
ジーシャウトで懲らしめてやるわ。」

??.??.S「いやいやいやダメでしょーーー！オイラたちがあの人た
ちを説得させるんだってー！」

? ? ? F 「まあ、いいから。よくきてね。ラッショ、ドルク、シ
ルム。」

ラッシュ（？）「ああ。」

シルム（？）「わかつた！」

「アーヴィング（？）——OKだよ！！！」

なにやら、緑色の大きい亀のような不思議な生き物と頭などから炎を出ししている不思議な生き物、オレンジ色でお腹はクリーム色の尻尾に炎がついている不思議な生き物2匹がなにやら話し込んでいた。そのうちの傷がたくさんついている竜のほうが、ラッシュと云う名前で、亀がドルク、猿がシルムだ。

エルケー！ ああ、田舎のフォッケ！」

ラッシュロー だな。

シルム、オイテ達に任せでぬ」オッケさん、「

アラシケ(?) - ああ しゃあ頼む！」

三にて 四は分かれた

? ? ? ゾ「よしーじゃあ・・・脱走をしようとしていた38歳の

少年とチビ料理人を探さひつー。」

「でも、どここるんだー?」

「多分……門の前だとおもつ。」

「それじゃあ行きましょー!」

「そうね。それじゃあ行きましょー。早めに行かないと。一応学校長が槍の門を展開したようだけど……早く捕まえなきゃ、この学校内に隠れちゃうもんね。」

「そうね。それじゃあ慎重に行きましょー。ハク、忍、ルナ、クロ。」

「わかったわ。ユニア。」

「ええ。」

「うんー。」

「分かったニヤーー。」

「ここでは、美少女達4人と可愛らしい蝙蝠猫（猫の姿だが、背中に蝙蝠のはねのようなものがついている動物）がいて、ひからせミゲールたちのことを話していた。」

そして、ある部屋では……

「フツフツフ……ミケールとぶつたん……なかなか面白

い者達だ。」

その部屋には、青い傘を持った青年がどけの窓からホールとふうたんを観察していた。

ミケールとふつたんの物語 の巻き（後書き）

次回から自分で書きます。

あ～めん・・・あいやなんでもないでや～（汗）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6594y/>

ミゲールと、ぷうたんの物語 ~おかし{お菓子(おかしい)}ランダムー学校
2011年11月20日12時50分発行